＜2019 年度修学旅行研究会開催報告＞

日　時:2019 年 11 月 19 日(火)
場　所:名古屋都市センター会議室
発表校:田原市立赤羽根中学校
テーマ:ふるさと「田原」を見つめ直す修学旅行　－　首都圏で見聞したことを活かして　－

【修学旅行のねらい】

① 首都圏ならではの体験、見学、ふれあい、宿泊、交通機関の利用などを通して、見聞を広めるとともに、社会性を高める。
② 班別見学コースづくりや事前学習を通して、企画力、自主性、計画性を身につける。
③ 事前の企画や準備も含め、集団生活や集団行動を通して、仲間づくりをしていくとともに、協力性や協調性を養う。
④ 日頃の生活の中では容易に得られない感動や喜びを味わい、心に残るよい思い出を作る。
⑤ 田原と首都圏の違いをつかみ、田原を見つめ直す機会にする。

【事前学習】

(1) 見学計画
① 班別分散研修計画･･･見学地、行程を HP やガイドブック等で調べ、班で相談し決定する。
② 学級選択コース ･･･旅行社より提供された選択コースから、クラスで話し合い決定する。

(2) 首都圏と田原の比較
東京と田原のイメージマップを作成し、自分の中で違いを把握するとともに、比較する意識を持つ。

【修学旅行の日程】

1日目　豊橋駅 → 東京駅 → 国会議事堂 → 警視庁 → 東京スカイツリー → ホテル
2日目　ホテル → 東京都内班別研修 → 東京ディズニーランド → ホテル
3日目　ホテル → 学級別研修 → 横浜中華街 → 新横浜駅 → 豊橋駅

【当日の活動】

(1) 班別研修
舞浜駅を起点に班の計画に沿って行動し、15:30 までに東京ディズニーランド前に集合した。Manaka カード等を利用する生徒が多く、切符の買い間違えなどのトラブルもなく、終えることができた。移動する中で、東京の人の多さを体感した。

(2) 学級別研修
A 組〈三菱みなとみらい技術館〉〈オービィー横浜〉、B 組〈カップヌードルミュージアム〉で研修した。科学技術の進歩を学んだり、珍しい動物とのふれ合いを体験したりできた。

【事後の活動】

（1） 修学旅行レポート作成 （首都圏と田原の違いについてまとめる）

（2） 田原のよさウェビングマップの作成（魅力と課題、未来に向けて今後の対策を考える）

（3） テーマ別研究と発表 〈良さや課題を今後どうしていくかまとめ、発表する〉

【成果と課題】

○ みんなで楽しく思い出に残る旅行にするために、一人一人がよく考え、ルールを守り時間を意識して行動できた。社会性や自主性の向上、仲間づくり、協調性、思い出つくり等、修学旅行の目的をしっかり達成することができた。

○ 魅力ある首都圏と田原との違いを意識させることによって、ふるさとの良さを再確認し、ふるさとの未来に目を向けることができた。

▼ 班別研修は移動に時間がかかり、見学地が限られてしまう。３日間のどこに位置づけるか考えねばならない。

2020 年度は、名古屋市立宮中学校の事例発表を予定している。

ふるさと「田原」を見つめ直す修学旅行
～首都圏で見聞したことを活かして～

校長　樽谷　哲郎

愛知県
田原市立赤羽根中学校

●学校紹介

本校のある田原市は、愛知県の南端に位置する渥美半島のほぼ全域が市域である。三方を海に囲まれ、温暖な気候で自然も豊かであり、農業産出額全国一位を誇る。本校の学区は半島の中央に位置し、太平洋に面している。昭和22（1947）年に赤羽根村立赤羽根中学校として開校した。町制施行を経て、旧渥美郡内の合併にともなう市制施行により、平成15（2003）年に田原市立赤羽根中学校となった。令和3年度に隣接する田原市立泉中学校と統合し、生徒数は200名を超えるが、その後減少していく。校訓「誠実・錬磨・創造」のもと、教育活動に取り組んでいる。

校舎外観

School Data

【創立年】昭和22（1947）年
【教育目標】
「知・徳・体の調和のとれた、心豊かで主体的に活動する生徒の育成を目指す」
○命を大切にし、心優しく思いやりのある生徒
○夢や希望、目標をもち、その実現に向けて粘り強く取り組む生徒
○よく考え、自ら学ぶ生徒
○心身ともに健やかで、たくましい生徒
【全校生徒数】135名（8学級　内特別支援2学級）
【教職員数】17名

実施要項

●旅行先　東京・横浜
●時　期　令和元(2019)年5月8日(水)～5月10日(金)
●実施学年　第3学年2クラス　生徒43名(内特1名)
●引率者数　7名
●日程概要

【1日目】 5月8日(水)
豊橋駅→東京駅→国会議事堂→皇居→警視庁→東京スカイツリー→両国(夕食)→ホテル
【2日目】 5月9日(木)
ホテル→舞浜駅→都内班別研修→舞浜駅→東京ディズニーランド→ホテル
【3日目】 5月10日(金)
ホテル→学級別見学→中華街(昼食)→新横浜駅→豊橋駅

はじめに

良いところがいくつもある田原市だが、生徒の田原に対する意識やイメージはあまり良くない。良い点は「自然が豊か・人が優しい」ぐらいである。それ以外は「田舎で何もない・つまらん・不便」といったものが多い。都会への憧れも強い。そこで、田原市教育基本計画において、「田原の子は田原で育てる」のスローガンの元、「ふるさと教育の充実」が重要施策になった。田原を見つめ直す、田原の魅力発見、未来の田原を考えるといったねらいで、地域に根ざした総合的な学習の時間が各校で展開されている。

本校では学年毎、次のような取り組みを行っている。

①1年生「僕らは社会の助け人」（福祉について学ぶ）
・田原福祉専門学校や市内の福祉施設の方による各種講座・市内の福祉施設での実習体験
②2年生「僕らは夢追い人：見つめよう将来の自分」（職業について考える）
・校区内20数カ所の事業所の協力を得て行う職場体験学習
・市内の働く大人に話を聞く講座（夢ワーカーリンク）
③3年生「僕らは未来の街創り人」（田原について考える。ふるさと教育のまとめとして。）

●重点を置いた活動

首都圏を見聞し、「田原」と比べることにより、ふるさと田原を見つめ直す活動

・赤羽根と首都圏：赤羽根と首都圏を比較する修学旅行
・ふるさとの魅力を探る…テーマ学習（田原の魅力と課題、未来に向けて）

修学旅行のねらい

①見聞を広めるとともに、社会性を高める。
②企画力、自主性、計画性を身につける。
③仲間づくりをしていくとともに、協力性や協調性を養う。
④感動や喜びを味わい、心に残るよい思い出を作る。
⑤田原と首都圏の違いをつかみ、田原を見つめ直す機会にする。

事前学習

(1)見学コース決定

班別研修計画

各班で見学地をHPやガイドブック等で調べ、昼食場所と交通機関を組み合わせた計画を作成した。
〈見学地〉・明治神宮・神田神社・葛西臨海水族館・豊洲市場・浅草寺・高木神社・太鼓館
・日本科学未来館・アニメイト・古代オリエント博物館・熊谷守一美術館
・野球博物館・新国立競技場・東京体育館

学級別見学コース

学級別見学コースは、旅行社より提供された横浜探索コースから、学級で話し合い選択した。A組は三菱みなとみらい技術館とオービィ横浜、B組はランドマークタワーとカップヌードルミュージアムのコースを選んだ。

(2)イメージマップ

首都圏と田原の比較をするので、東京と田原のイメージマップを作成し、自分の中で、違いを把握するとともに、比較する意識をもたせた。イメージ通りなのか、3日間の旅行で確かめた。

当日の様子

1日目

〈国会議事堂周辺〉

車窓から霞ヶ関の省庁も見ることができ、日本の政治の中枢を見ることができた。国会議事堂、皇居、警視庁は近いので移動も便利である。

〈警視庁〉

薬物依存に関するビデオ視聴・通信指令センター見学・資料室見学の3本立てだった。通信指令センターはなかなか見られるものではないので、非常に関心が高く、熱心に見学してい

警視庁見学

た。ひっきりなしに電話が掛かってくる様子から、事件事故の多さを知るとともに、地元の平和さを再確認していた。資料室も警察の歴史や仕事内容など興味深い物が多くあり、熱心に見学していた。印象に残った生徒が多く、まとめのレポートでは、43名中17名（ディズニーランドと同数）が記述している。

〈東京スカイツリー〉

エレベーターは季節毎デザインが違い、どのエレベーターに乗るか楽しみにしていた。「展望デッキからの景色は最高。日本一高い建物からの景色は特別なものがあった。ガラスの床から真下を見た。あまりの迫力と怖さに、足が動かなかった。」といった感想をもった。

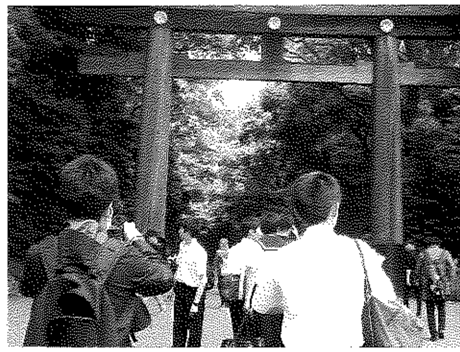
2日目

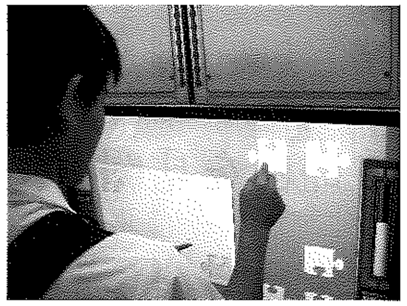
〈班別分散学習〉

8：30頃に舞浜駅を起点に班の計画に沿って行動し、15：30までに東京ディズニーランド前に集合した。交通系ICカードを利用する生徒が多く、切符の買い間違えなどのトラブルもなく、終えることができた。移動する中で、どの生徒も東京の人の多さを体感していた。

3日目

〈三菱みなとみらい技術館〉


班別分散：明治神宮


三菱みなとみらい技術館

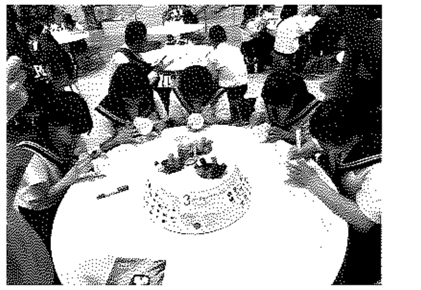
技術系の見学場所なので女子はどうかと思ったが、男女ともに興味深く見学できた。「様々な展示品があってとても楽しかった。宇宙飛行士になりきり仕事をするゲーム等があり、今の技術を面白く学ぶことができた。技術がすごく進歩しているんだなと思った。」といった感想をもった。

〈オービィ横浜〉

女子は喜ぶが男子はどうだろうかと思っていたが、男子もかなり喜んでいた。「普段ふれあうことのできない動物とふれあうなど、珍しい体験をした。『マウントケニア』ではマイナス20℃～マイナス25℃の環境を体験した。様々な貴重な体験ができた。」という感想が多かった。

〈カップヌードルミュージアム〉

カップヌードル一色であるが、製造工程見学や手作り体験に満足していた。「『マイカップヌードル作り（①カップのデザイン②スープと具材選び③持ち運びケースづくり）』がとても楽しかった。機械が麺を入れていて驚いた。カップ麺の種類の多さに圧倒された。」という感想がみられた。


マイカップのデザイン中

事後学習

修学旅行レポート作成

A4サイズにパソコンで作成し、必ず自分たちが撮ってきた写真を入れ、首都圏と田原の違いについて、記述するようにした。

〈首都圏と田原の違いについて、レポートの生徒の意見〉

・東京のいいなと思ったところは、交通機関が多く、電車がすぐに来たりしてすごく便利なところです。田原のいいところは、緑が多いところです。ハウスがあり、花がたくさん咲いている田原は、やっぱりいいなと思いました。修学旅行を通して、東京の魅力を発見し、田原の魅力を再発見できました。

・日本の経済、政治、文化の中心地である東京はあらゆる点で田原に勝っていましたが、緑が多くて落ち着ける点では田原が断然勝っていたなと思いました。自分的には、田原市のほうが住みやすい町だと思います。

・東京は自然が少なく建物が多くて都会って感じだったけど、田原は建物が少なく自然が多くて空気がきれいなので、田原にも東京と違う良さがあるなと思いました。

・田原にいるだけだと感じなかったけど、東京に着いて外に出た瞬間、田原の空気はおいしいんだなと思いました。

田原の魅力を探る：テーマ学習（魅力と課題、未来に向けて今後の対策を考える）

①田原のよさウェビングマップから、良さと課題をつかみ研究テーマを決めていった。農業、観光、自然、交通機関、商業といったキーワードが浮かび上がる。

②良さや課題を今後どうしていくかテーマを設定し、研究し発表した。

〈発表例〉

・人口が少ない、移動が不便…交通網の整備

・農業が盛ん…農作物のPR、売り込み、後継者不足の解消

・景色が良い、祭りや海が魅力的…魅力情報発信、イベント、菜の花ナンバープレート

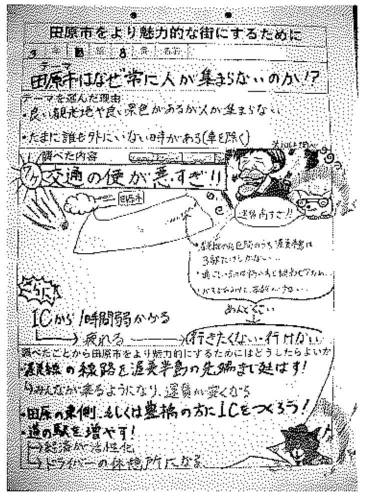
・観光客を増やす…駐車場などの整備、きれいな環境を維持する活動

・産業の活性化と経済発展…技術開発、ブランド化

〈発表を聞いた感想〉

・みんないろいろなことを調べていて、小さな市なのに、良いところがいくつもあるんだなと思った。田原市に余裕があれば、今回の発表で出た案を一つでも試してみればよいのになと思った。

・友達は農業などについて調べていた。私は田原の田舎過ぎるところがとても嫌で、どこに住んでいるか聞かれたとき、田原に誇りをもてなかった。しかし、友達の発表で、田原市の農業が日本1位と聞いてとても興味が湧いてきた。また、意外にたくさんの魅力があり、感心した。田原のすごさが分かったので、これからは自慢したいと思う。



テーマ別研究のまとめ

成果と課題

〈ねらい①から④について〉

◎みんなで楽しく思い出に残る旅行にするためにはどうすればいいか、一人一人がよく考え、ルールを守り時間を意識して行動できた。社会性を高める、自主性を身につける、仲間づくり、協調性、思い出つくり等、修学旅行の目的をしっかり達成することができた。

▼班別研修は時間の関係で見学地が限られてしまう。3日間のどこに位置づけるか、時間設定も含めて、考えねばならない。

〈ねらい⑤について〉

◎魅力ある首都圏と田原との違いを意識することによって、ふるさとの良さを再確認し、ふるさとの未来に目を向けることができた。

▼事前学習で比較するポイント、視点を絞っておくことで、事後のテーマ別研究をより深めることができたのではないか。

おわりに

『田原には田原の魅力が』（生徒会新聞に掲載された3年生の原稿より）

行き交うたくさんの人、高いビル、オシャレな店舗。どこを見ても初めてのものばかりで見とれて過ごした修学旅行。竹下通りで店員さんに尋ねごとをすると、笑顔でていねいに応対してくれました。

しかし、人とぶつかったときに「すみません」と声をかけても、その人の姿はもう見えなくなっていたことがありました。このことから田原の良さにも気づくことができました。それは、人と人、地域と地域のつながりが強いということです。声をかければ必ず言葉を返してくれます。また、地域の人同士で声をかけ合って行事をしたり、地域の安全を守ってくれたりしています。田原の人の温かさを改めて実感することができた修学旅行でした。

有名企業、イベント、華やかさ、交通機関の便利さ等、首都圏には大きな魅力がある。メディアやSNSからも魅力的な情報が入ってくる。どの生徒も、魅力ある憧れの東京へ行くということで、修学旅行に対するワクワク感はとても強く、楽しみにしていた。そして3日間を大いに楽しんだ。実際に見聞することで、首都圏の魅力をさらに強く感じた。

一方で、住んでいると気づかないことが、外に出てみて気づくこともある。首都圏を見聞することによって、田原の良さを改めて感じることができた。

大学進学、就職等で市外に行き、そのまま戻ってこない者はいる。どこで生活しようと、自分達で見つけた田原の良さや魅力を忘れず、愛着をもち続けてほしい。